



発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町3-6  
☎0959(72)3957  
●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

## 新しい時に

主任司祭 中村 満

新年おめでとうございます。月遅れの挨拶ですが、小教区報は本号が新年号になりますので、遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。同時に、今年も神様の祝福に満たされた良き年でありまうように祈念いたします。

今年も昨年同様、年明け早々の一月二十日に下五島地区合同堅信式が行われ、二四名の受堅者が誕生しました。今年には三井楽教会が六名、水ノ浦教会が四名、浦頭教会が二名、奈留教会が一名、福江教会が十一名という受堅者数でした。堅信の秘跡によって聖霊である神を迎えられた方々が、聖霊に導かれ、支えられ、強められて、福音の証人としてそれぞれの場でキリストを証して欲しいと願っています。

ところで、昨年は皆様の御かけで、実り多き、忘れられない年になりました。牢屋の窄殉教一五〇周年の年に当たり、浜脇教会堂の基礎補強工事、外壁の塗装工事などを多くの方々の善意によって完了することができました。また、十月末には大司教様をお迎えし一五〇周年の殉教祭も実施することができました。殉教地に碑文の新設もあり、思い出深い記念の年になったと実感しています。六月末には浜脇教会の主任司祭として働いて下さった前田万葉大司教様が枢機卿に任じられ、ローマでの親任式に参列することができました。また、十一月末には一八八福者の列福十周年記念のイタリア巡礼にも参加でき、四百数十年の時を辿ることができ感慨深いものがありました。神様と皆様に感謝すべき一年だったと振り返っています。さて、一年の計は元旦にありと申します。今年新しい時代への

変わり目と推察することができるといえるでしょう。春には新天皇が誕生し、平成から新しい元号に変わります。教会に視点を移すと、今年十月は、全世界の教会で「宣教月間」に取り組みます。十一月末頃には、

認じていきたいと思えます。多少、私の解釈が入っている部分もありますが、ご了承ください。  
「じょうち」と聞いたなら真っ先に「上智」の方が思い浮かぶかもしれませんが、「上知」です。上を知る、つまり神様を知ることのできる賜物です。神様を知らなければ、私たちは神様を信じてとや敬うこと、まして愛することもできません。その意味でこの賜物は最も基礎的な賜物です。  
「聡明」とは、よく聞こえること、またよく見えることから、物事の理解が早く賢いことです。私たちの信じる神様が様々な人や物事を通して、私たちに与えて下さる言葉などを聴き、見ることができるようになってくれるものです。

## 賜物

助任司祭 山内啓輔

先日、無事堅信式が終わり、担当であった金神父様の肩の荷も非常に軽くなったと思います。堅信といえは聖霊の七つの賜物ですが、皆さんは「聖霊の七つの賜物」言えますか？

上知、聡明、賢慮、勇氣、知識、孝愛、神（主）への畏敬です。ではこの七つの賜物を説明できますか？言葉が多少違ってても、折角堅信の時に頂いた特別な賜物ですので、「主への畏敬」以外の六つを確

「賢慮」は賢明な考え・判断、また他の人の判断を敬って使う言葉です。教会の責任ある一員として、自分の考え・判断だけではなく、他の人の考え・判断にも敬意を払う姿を表すこの賜物は「隣人を自分のように愛しなさい」というイエス様の掟にも通じます。  
「勇氣」は自分が立ち向かう困難や危険などを正しく知り、覚悟を持って行動することです。信仰生活、信仰教育や宣教には必ず困難などが付きまといまう。そんな困

難を時に乗り越え、時にうまく付き合うための大事な賜物です。

「知識」という賜物は、物事について理解し、適切に処理する能力です。ただ受身で知っただけでは「知識」とは言えません。その知ったことについて自分なりに考え、時には技能を身につけることが知識の賜物の働きです。

「孝愛」は一般的な言葉では無いようです。教皇の言葉を借りるならこの賜物は神と私たちの友情のしるしです。そこから隣人愛へと発展していきます。

この七つの賜物によって皆さんも含めた教会内のすべての受堅者が、教会の責任ある一員として過ごしていくことができますように、堅信が終わった今だからこそ改めて祈りをささげましょう。

## 司祭叙階

### 二年目になつて

助任司祭 金 ボム

日本に来る前に、神学校の同級生たちと最後のお別れ会をしたとき、ある同級生からこのように言われました。「わたしたちがどのように神さまに使われるか分からないけど、お前は分かるようになって

たからいいね、羨ましい。」確かに韓国の同級生たちとはちょっと違う所に行って生活しています。わたしにはまだ、神さまがどのようになつて使われるか、まったく見えません。司祭叙階されて二年目になる今年でも、多分神さまのみ旨は分からないと思います。おそらく死ぬまで神さまのみ旨が分からないのではないかと思います。

神さまがわたしを使われるために、それを通してわたしに対する神さまのみ旨が何なのかを知るために、わたしは毎日司祭として生活しているかもしれません。神さまにとってよりよい道具になるために、神学校の時に鍛えられたつもりですが、まだまだ全然足りない気がいたします。特に与えられた時間を、どのように活用するか、より自分の発展のために有意義に使うことを、心では思っています。中々実行まではしていません。そういう意味で、今でも自分に与えられた時間を使って、より良く自分を鍛えることは出来るはずだと思います。

そのためにわたしにとって忘れてはならない言葉が初心というものです。叙階されたときの初心を忘れないように、叙階の言葉を決

めました。今は初心というものがどこかに逃げてしまいました。最近、同級生の神父さまとしゃべったとき、二年目になつて、叙階の恵みはとっくに消えてしまったとわたしが言ったら、その同級生は自分は消えるまで三ヶ月かかったと言ったので爆笑しました。新しいときを迎えた今、自分の叙階されたときの初心を、もう一度思い起こし、自分の生活において、その初心を実現して行きたいと思えます。そのために、自分に与えられた時間をより有意義に使うように、神さまのための道具になるために自分を鍛えるように時間を使うように、この文を書きながら、心で刻みます。

## ローマからの

### 良き知らせ

評議会議長 入口正雄

昨年は、イタリアに行く機会が二度ありました。一度目は六月に、大阪大司教区の前田万葉大司教様の枢機卿親任式があり、バチカンのサンピエトロ大聖堂で行われた親任式に参列しました。翌日には、サンピエトロ広場で行われた新枢機卿司式による感謝ミサに参列し、

駐バチカン大使公邸での祝賀レセプションに出席しました。その後、ローマ近郊のオルヴィエート大聖堂で前田枢機卿様司式のごミサに与り、無事に帰国しました。帰国後暫くしてから、教皇様が訪日の意向を示されたとの報道がありました。

二度目は十一月に、高見大司教様を団長とする福者ペトロ岐部司祭と一八七殉教者列福十周年記念司教団公式巡礼があり、福者中浦ジュリアンと天正少年使節団の足跡巡るイタリア十二日間の巡礼に参加しました。ペトロ岐部神父様が帰国するためイタリアを出港したチビタヴェツキアにある日本聖殉教者教会を巡礼し、高見大司教様や山野内さいたま教区司教様を団長とする巡礼団と一緒にごミサに与った。翌日に、サンペトロ広場で行われた教皇様の一般謁見に参列し、岐部神父様の叙階式が行われた四大バジリカであるサン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂やサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂を巡礼しました。また、中浦ジュリアンの肖像画や天正少年使節の壁画が描かれているバチカン図書館に特別入場する事が出来ました。翌日からは、少年使節団がイタリアのリヴォルノに入港後訪れたピ

サ、フィレンツェ、ヴィチエンツァ、ベネチア、マントヴァ、サン・ベネット・ポー及びミラノにある少年使節団に関する施設や聖堂等を巡礼し、帰国しました。

十二月の中旬には、来年の年末までには訪日することが伝えられていたが、今年の十一月下旬に訪日することが表明されました。三十八年前の一九八一年二月二十六日の長崎市松山町の市宮陸上競技場で行われた教皇歓迎集会で、ヨハネ・パウロⅡ世教皇様は、「皆さん（吹雪の野外ミサに）忍耐強くなればよかった。長崎にふさわしい催しだった。かつて日本の殉教者が味わった苦しみ、寒さに我々もあずかったのだ。これら殉教者が、信仰のタネとなった。神に感謝！」等のお言葉を残して日本（長崎）を去って行かれました。フランシスコ教皇様は、訪日（来崎）してどんなお言葉を話されるのか、今から待ち遠しい限りです。



## 堅信式 2019



一月二十日（日）午前十一時より、下五島地区合同堅信式が福江教会にて高見大司教様司式のもとで執り行われた。今回、堅信の秘跡に与ったのは、全教区合計で二四名であり、その中で福江小教区の信徒は十一名（うち大人二名）であった。

厳かな空気の中、受堅者一人ずつの名前が読み上げられた後、大司教様が手をかざして聖霊の恵みを受けられた。続いて悪霊の拒否と洗礼の約束の更新を宣言した。

高見大司教は説教の中で、「堅信

のお恵みは洗礼のお恵みを強化・固めるためのものです。みな洗礼を受ける事で神様の家族になります。これを有難い事、嬉しい事、感謝する事、素晴らしい事と気づかせて頂く。堅信により、良く理解し確信する。神様の子供、家族、教会の一員としてくださるのです。皆さん、神様の子供として相應しい生き方をして下さい。」と述べられた。

また、「才能は、神様が下さった賜物です。才能を生かさなければなりません。そして得たものを分かち合うことによってお互いが豊かになります。皆さん、人は必ず周りの人や社会から恩恵を受けています。一人では生きていけないのです。共同体の一員として協力しなければなりません。」「お恵みはお互いに分かち合い、共同体として大事にする。キリストを知らない人に、人々を愛する考えを言葉・生活態度で証する使命。それらを強めてくださるのが堅信です。勇気、判断、おそれ敬う心。信者として生活し神様の愛を自らよくわかって伝えること。これを使命として与えられ、そのために愛を頂いている。生涯、自覚を深め、恵みとして受け入れ隣人と分かち合う信仰の道を捧げて行ってください。」との言葉が送られた。





# 司祭団マラソン大会

一月二十九日(火)

奥浦地区の堂崎天主堂から福江教会まで約八・五キロを神父様や信徒たちが走る司祭団マラソンが行われました。駅伝部門やウォーキング部門もあり各自ゴールを目指しました。今年も晴天に恵まれ、たくさんの方の信徒・シスター・園児の可愛いちびっこ応援団も結成されて声援をおくっていました。



選手への誘導や記録・救護スタッフなどサポートして頂いた信徒の方の協力にも感謝です。

信徒の方も一緒に走れます。私もそこはという方は、次回参加してみたいかがでしょうか？



# 子ども聖歌隊

報告・お礼

十二月二日(日)に長崎市の中町教会で「第二七回 子ども聖歌の集い」が行われ、福江教会から子ども十六名が参加しました。十三もの教会が集った中で、無事に演奏を披露し、神父様方の票によって選ばれるという「特別賞」の三枠になんと入賞することが出来ました！皆様の祈りと応援、お励ましのおかげと心から感謝いたします。



子どもたちもいつものとおり笑顔で元気に歌い、聖歌を通しての喜びや嬉しさを、身をもって証し伝えてくれました。何より子どもたちの頑張りに拍手を贈ります。夏から本格的に練習を始めて、初めての大きな舞台。

良い体験になったのではないのでしょうか。他の子どもたちの歌声を聴き、ともに集い、それぞれの心に何が蒔かれ生まれた瞬間でよく頑張ったと思います。

# お知らせ & 今後の予定

## ●クリスマス募金

12月24日の御ミサ前の聖堂入り口での募金活動と、その後1月6日まで、設置された募金箱に合わせ186,443円の募金を賜りました。今回もご協力誠にありがとうございました。

## ●聖ヨセフ金神父様霊名のお祝い

祝賀式：3月17日(日)  
2番ミサにて  
※祝賀会を2番ミサ後に信徒会館にて行います。

## ●高校生旅立ちの集い

3月9日(土) 晩ミサ後  
●高校生の黙想会  
3月23日(土)

これからも聖歌をとおして一致と平和のしるしになるように練習など励んでいこうと思います。これからも応援よろしく願います。また、日頃よりお手伝いいただき、助けて下さっている聖歌隊保護者のみなさまにも心より御礼申し上げます。

カテキスタより感謝を込めて

※子ども聖歌隊は随時申し込みを受け付けています。歌うことが大好きな皆さん、私たちと一緒に聖歌を歌ってイエスさまを伝えませんか？

## ●黙想会の日程

昼の部：4月2日(火)～4日(木)  
夜の部：4月2日(火)～4日(木)  
講師：奈留教会  
聖ダニエル金神父様

※今回は昼の部から始まります。時間等、詳しくは後日案内があります。

## ●聖週間のミサ予定

4月18日(木)～20日(土) 19時  
4月21日(日) 6時、9時

## 《寄付・香典返し》御礼

○出口 萬里子様  
故ペトロ 出口 幸治様  
右記の方から、寄付及び香典返しとしてご芳志を賜りました。  
ご報告申し上げますと共に、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

## 編集後記

今年最初の広報誌「こころ」発行となりました。今年も信徒の皆様よろしくお願い致します。例年以上に様々な記事を、様々な視点を交えて掲載していけたらと思います。いつも記事をお願いしている神父様方やシスターの方に感謝しつつ、信徒の皆さんの意見、感想なども紹介していきますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。(N)